

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷五十第

行發日一月二十年一十正大

論叢

相續税に於ける特殊累進に就きて

法學博士 神戸 正雄

勞農露國の農業

法學博士 河田 嗣郎

マルクス氏の集産主義の實行難を論ず

法學博士 田島 錦治

基督教文明の發展概論

法學博士 財部 静治

經濟道と經濟術

法學士 作出 莊一

資料

中央市場論井に食料品配給費研究

法學博士 戸田 海市

說苑

リストと歴史派經濟學

法學士 山口 正太郎

我的都市及地方に於ける婚姻の統計的觀察

經濟學士 岡崎 文規

雜錄

無責任なる翻譯の一例

法學博士 河上 肇

原田學士譯ボーリーニ經濟學原論

經濟學士 小川 福太郎

價格指數に就て

法學士 沙見 三郎

附錄
本誌第十五卷總目錄

物價調節研究資料

戸田海市

本稿は病床中執筆せしものにして、意に満たざる點少からざるも、其儘發表す。

第一 中央市場設立問題

一 中央市場と小賣市場との關係

物價調節の手段として重要視せられつゝある日用品中央市場問題を研究するには、先づ中央市場と小賣市場との改善の緩急を明かにすることを要す、日用品が生産者の手を離れて消費者の手に渡るまでの配給組織の中に在て最大の費用を要するは小賣の費用なり、故に小賣費用の整理節約を講ずることは物價調節と重大の關係を有すること明かなるが、更に中央市場を有効ならしむるが爲めには小賣取引の改善を急務とす、從來の如く得意廻りと掛賣りとの悪慣習の行はるるが爲め、日用品小賣業が無数の細小微方の企業となれる間は、中央市場を設立するも一般小賣商人が中央市場を利用して直接に問屋又は地方荷主と取引すること難く、依然として幾回も中間商人の手を経由して仕入れを爲すことを必要とすべく、従つて又中央市場の相場も直接に小賣相場に

影響する公定相場としての權威を有すること難かるべし、此の如き状態の下に於て中央市場を設立するも、其主たる効果は産地より消費地までの運送の一部及商品保存の點に改善を來たすに止まるべく、之れが爲めに全體の配給費を節減し得る程度は僅少ならざるを得ず、從て此の如き小利益を擧ぐるが爲めに巨額の資金を投じて中央市場を設立することは國民的浪費となるの危険多かるべく、特に其設立費用を市場取引に負擔せしむるときは、配給費を減じて物價を調節するの目的に反するの危険あり、故に今日國民が日用品配給の改善の爲めに資金を投することゝするときは、單に之を中央市場の設立改善のみに止めず、必らずや同時に小賣市場の改善の爲めにも使用し、以て小賣取引に於ける從來の惡慣習の一掃に努力せざるべからず。

二 中央市場自身の問題

中央市場に關する重要な問題は新設市場と既存卸賣市場との關係、中央市場の集中と分散、中央市場の經營管理等の問題なるべし、此中目下最先に解決難を感じつゝあるは既存卸賣市場との關係を如何に處理すべきやに在るが如し。

中央市場と既存卸賣市場との關係を決定する方法は大體三種に分る、既存の卸賣市場を全廢して新に市場を設立する急進的方法と、既存市場を存置して其作用を完全ならしむる設備を爲す保守的方法とは、兩極端に立つものにして、新設市場と既存市場とを併立競争せしむる方法は漸進的折衷方法と云ふべし。

甲 既存市場全廢方法

此方法の内容 單一又は數個の中央市場を設置して水陸の交通連絡を便にし又商品保存の裝置を完全にして、一切の卸賣取引を此市場に集中して行はしむ。

此方法實行上の疑問 此方法は市場の物質的設備を理想的ならしめ、且つ既存の卸賣市場に固着せる諸種の悪風を革新するに有利なるが如しと雖も、之が實行に付ては下の如き疑問を生ずべし。

(一) 此方法を實行するが爲めには初めより巨額の經費を投じて宏大の市場を建設せざるべからず、之が建設は主として政府より低利資金の融通を受くることとするも、尙ほ市場維持の經費は頗る多額となり、従つて市場取引の負擔すべき手数料も大となりて、物價調節の目的を達すること困難ならざるか、既に述べしが如く中央市場の能率を高むるには單に其物質的設備を完全にするを以て足れりとせず、必らずや同時に小賣取引の革新に由りて中央市場に活動する當事者の地位を改善せざるべからずと雖も、小賣取引の革新は一朝一夕に實行し得るものにあらず、故に小賣取引の極めて不完全なる今日に於て、妄りに中央市場の設備に巨費を投ずることは、權衡を失し、重大なる國民的浪費とならざるや。

(二) 此方法を實行する爲めには既存の卸賣市場の全廢を必要とし、従て在來の問屋業者に對して相當に多くの賠償金を交附せざるべからず、此賠償費用は中央市場設立費用の重大なる一部分を爲して市場取引の負擔を更に増加することとなるべし、既存市場を俄かに全廢するときは取引の混亂を生じて之を不振に陥れ、之が恢復には少なからざる時日を必要とし、目前の急を

告ぐる物價調節は之が爲め著しく妨害せらるゝことなきや。

(三) 新設市場以外に於て大規模の卸賣市場を組織することは之を禁止し得べしと雖も、個々の有力なる商人が有利の仕入れを爲して市場外に卸賣取引を行ふことは到底之を防止し得ざるにあらずや、特に從來多く實行せらるゝ如く問屋業にして同時に小賣業を兼營するときは、之を防止すること益々困難ならざるか、市場外の卸賣取引が増加するほど市場内の取引が減少し従つて市場内取引の経費負擔は益大となるを免れざるは明かなるが、元來新設市場に於ける取引の負擔が上述の如く多大なるときは、市場外の卸賣取引の發展することを防止し得ざると同時に、此の如き競争的の市場外取引の發展は消費者にとりて有利なるが故に、之を防止せんとすることは不當ならずや、果して然らば賠償金の支出と取引の擾亂とを顧みず、既存市場を全廢して卸賣取引を新市場に獨占する方法が根本より誤れりと斷定し得るにあらずや。

乙 既存市場完備方法

此方法の内容 既存市場に對して水陸交通連絡を便にし商品保存の裝置を設けて一般問屋及荷主に之を利用せしめ、又場合に由りては或程度に地方荷主の委託販賣を引受くる設備を之に附屬せしむ。

此方法實行上の疑問 此方法は初めより巨額の経費を要せず、又在來の商取引を一時混亂せしむるの弊なくして平穩に實行し得るの利あるが如しと雖も、其實行には下の如き疑問を生ずべし

(一) 此方法に由れば既存市場に固着せる種々の弊風を革新すること甚だ困難となり、特に市場の

作用を完全ならしむる爲め公費を投ずるも其利益は少數者就中間屋業者の多く獨占する所となりて、物價調節の目的を達すること困難ならざるや。

(二) 既存市場が數箇所に分散する場合に於て、各市場に對し夫々相當の設備を爲すときは意外に多額の經費を必要とし、而かも其効果は割合に微弱となるの弊なきや。

(三) 既存市場が相當に有力のものなるときは此方法に由り一層之を有効ならしむることを得策とすべきも、若し既存市場が甚だ不完全なる場合には、之が完備に力を盡すよりも寧ろ新市場の設立に努力することを得策とせざるや。

丙 新舊市場併立方法

此方法の内容 既存市場の改善に對しても或程度に資金を投ずると同時に相當の規模を有する新市場を設立し、特に此新市場は他地方より輸入する魚類青物類の大量品の取扱に便宜を與ふることに重きを置くことゝす、故に此方法に由れば都市附近に生産せらるゝ少量雜多の商品は主として既存市場に於て取扱はるゝことゝなるべし。

此方法、實行上の疑問 此方法は新舊兩市場をして各其特色を發揮せしめ、又或程度に新舊兩市場を競争せしめて商業の改善を刺戟し、以て消費者の利益を保護し、且つ新市場が漸次發展して舊市場を之に吸収し以て市場統一の結果を生ずるの利あるが如しと雖も、之が實行には下の如き疑問起らざるを得ず。

(一) 既存市場に於て土地家屋を有し且つ地方荷主に對しても相當の資金を融通して之れと有利の

取引關係を有するが如き有力の間屋は、一時多大の犠牲を拂ふて新市場に移ることを欲せず、之に移る者は主として資力信用の薄弱なる間屋に限らるゝ如き傾向を示さざるや、市場改善は決して單純なる物質的設備の改善に止まらず、取引當事者の改善は一層重要な關係を有するものなるが、特に資力信用の大なる者をして市場取引に従事せしむることを必要とす、故に若し此の方法の下に於て新市場に移る者が資力信用の薄弱なる者多しとすれば、新市場の前途は容易に樂觀し得ざるにあらずや。

(二) 新市場の設立に相當の資金を投ずると同時に既存市場の改善の爲めにも資金を投ずることを必要とするときは、此方法も意外に多額の経費を必要とする不經濟的のものとならざるや。

第二 食料品配給費の研究

一 食料品配給費の大なること

我國に於て日用品就中魚類青物類の配給費が不相當に大なることは汎く認めらるゝ所なりと雖も、未だ其詳細の調査研究を見るに至らず、下に掲ぐる米國の食料品に關する技術的生産費と配給費との割合の調査は、我國の夫れを研究するに方りて參考とするの價値あるべし、只だ茲に注意すべきは、我國に於ては一方に食料品生産業の中心を爲す農業漁業は極めて小規模無資力のものなるが故に、地方卸賣商人の手に之を集めて他地方に輸送するまでには再三中間商人の手を経由することを必要とする場合多く、他方には消費地たる都會に於ても八百屋魚屋等の食料品小

賣業は極めて細小薄資の者なるが故に、地方荷主又は問屋より直接に仕入れを爲すこと難く、再三仲買人の手を経由することを要する場合多し、故に生産業の規模の大なると同時に小賣業の規模も大なる米國の配給組織よりも、我國の夫れは著しく複雑なりと雖も、配給に従事する商人の生活程度が米國に比して遙かに低きが故に、配給費用の膨脹が制限せられつゝあり、故に其生活程度の向上に伴ふて我國の配給費は大に膨脹せざるを得ず。

米國食料品の生産費配給費割合の調査(七月二十九日、ジャイナル、オプ、コンマース所載)

一九二一年の割合

麵	麵	生牛肉	穀粉
五〇・八	六二・二	三六・六	六三・四
四九・二	三七・八	一九・五	二二・二
一八・六	二二・二		

大阪に於ける食料品の生産費配給費割合の調査(大阪府市場調査第一輯)

大阪府の大正九年の調査

地方同業組合の出荷に係はる果實蔬菜小賣價格に對する平均各費用の割合

生産者の所得	温州蜜柑	林	橘	牛	麥	大	根	以上平均
荷造費	四・七		四〇・八		五・四		四・五	四・五
運費	五・九		八・七		二・〇		五・七	五・七
問屋手数料	六・三		五・三		五・四		四・三	八・三
			五・七		六・七		七・七	六・三

仲買人手數料	五九・五			
小賣商人口錢	三〇・三	三三・六	四・六	四・九
計	100・00	100・00	100・00	100・00

本表に於て生産者と云へるは地方荷主たる同業組合なり、故に組合を組織する眞の生産者は相當の組合經費を負擔することを要するが故に其の所得は更に小となるべし、而して大都市に供給せらるゝ魚類青物類の大部分は生産者組合の手に由らずして商人に買集めらるゝものなるが、此買集めも生産者と地方問屋との間に直接に行はれず、更に中間に買集めらるゝものなること少なからず、故に、組合を組織せざる大多數の生産者の得る所は本表の數字よりも遙かに小となり、小賣價格の約三割を占むる小賣商人の所得と大差なき場合も少なからざるべし、換言すれば青物類が生産者の手を離れて消費者の手に渡るまでに價格が三倍となる場合少なからざるべし、魚類の生産費配給費の關係も大體は青物に類す、只だ魚類は青物に比して遙かに高價なるが故に、配給費の割合が幾分か小なるも能く配給従業者の生活を支ゆることを得るが如し。

世人は生産の改良を行ひ、其生産費を減少して物價を低廉ならしむると云へば、直ちに農工漁業等の狹義生産を聯想し、技術的改良に由りて能く目的を達し得るが如く考へ、更に一步を進めて考察する場合にも鐵道船舶の運賃の減少に考へ及ぶに過ぎざるを常とす、日用品の生産地より消費地までの鐵道船舶の運賃は必ずしも大ならず、消費地の港灣又は停車場より市場までの市内小運送の費用は之を超過する場合少なからず、更に小賣商人が得意廻りを爲し、又消費者の店頭

購買品を其住宅に送達する費用は之に幾倍するの巨額となるを常とす、要するに日用食料品の多數に在ては其配給費が技術的生産費に劣らざる巨額を必要とす、故に食料品の生産費減少に付ては其技術的生産の改善と同様に其配給組織の改善に努力せざるべからず、元來食料品の大部分は腐敗變質し易きが爲め之を迅速に處分することを要し、一方に消費者も絶えず小量づゝを購買し、一度に大量を纏めて購買せざるが故に、之が配給の手數が繁雜となりて巨多の經費を要するは已むを得ざる所なりと雖も、我國の配給組織の不完全なるは其生産の不完全なるよりも更に甚しく、従つて此方面に於て多大の改善の餘地を發見するを得べし。

物價を下落せしむるには通貨を收縮する方法と生産を増加する方法との二大別あり、前者を行ふて物價を下落せしむるときは、商人は高く仕入れたる商品を安く賣ることを要し、生産者は高き原料に由り生産したる物を安く賣るの必要に迫らるゝが故に、必然産業の萎縮と失業とを生ずるを免れず、從て假令へ其苦痛が一時的のものたるに止まり、後日の恢復を促進するの效果ありとするも、此方法のみに由り物價引下げを行ふことは甚だ困難にして往々中途に挫折するの憂あり、故に物價を引下げんとせば必らずや同時に生産増加に努力せざるべからず、然るに物價高きときは生産費も大となるが故に、生産供給を増加して其市價を下落せしむるときは、生産者は收支相償ふを得ず、故に物價高く生産費大なる間は人々生産を制限するに至る、此場合に生産を増加する只一の途は生産費を減少するの工夫を見出だし、以て生産の増加に由り市價の低落を來たすも尙は收支相償ふの状態を造り出だすに在り、而して吾人の生活に最も重大の關係ある食料

品の多數に在ては、其生産費の中技術的のものよりも寧ろ配給的のものが大なる部分を占むるが故に、其配給組織の改善が生産費減少の方法として重大の意義を有するのみならず、一面に食料品は農業漁業の如き原始生産物なるが故に、製造工業の如く其技術的生産に發明改良を行ふこと頗る難く、寧ろ其配給的方面に改良を行ふの容易なる場合多し、是れ生活必需品の物價調節に就て配給組織の改善が特に重要視せらるゝ所以なり。

二 配給費の中小賣費用の大なること

多くの商品就中食料品に在ては、小賣の費用が技術的生産費に次いで大なる部分を占むるは、我國と歐米と異なる所なしと雖も、其理由に至りては頗る異なる點あり、歐米に於て一般産業が進歩し従つて國民一般の生活程度の高き重大原因は、機械分業を應用して生産を大規模に經營することに在り、主として労働に由り營むことを必要とする産業の費用は其従業者の生活程度の高きが爲めに多大となるを免れず、小賣業就中食料品小賣業は歐米に於ても大規模に經營すること難く、従つて其經營は労働に由ること大なるが故に其費用も大とならざるを得ざるは、恰も歐米に於て手工品の甚だ高價なると異らず、我國民の生活程度は今尙ほ歐米先進國に比して頗る低きが故に、若し小賣業の組織にして整備するときは、其費用は歐米よりも頗る小なるを得べし、然るに我國の小賣業就中食料品小賣業に於ては得意廻り及掛賣りの方法が一般に行はるゝが爲め非常に繁雜多費の事業となり、特に之が爲め其小賣業は無數の細小企業に分裂して徒らに其費用を膨脹せしむるに至れり。

我國の小賣業就中食料品小賣業が如何に細小企業に分裂せるやを見る爲めに、左の東京大阪兩都市と米國全體との調査を比較せんに、米國の調査は都鄙を通じての全般的數字なるが故に、其調査を都會のみに限るときは食料品店數は更に數割の増加となるべく、恐らく其數は都會の全戸數に對し四五十戸に一戸の割合となるべしと雖も、我國の兩大都市の食料品店は本調査に於て既に九種に達し此外に市内に汎ねく分散する豆腐屋牛乳屋を初めとして副食物嗜好品に付き細小の營業多く、加ふるに飲食店にして同時に附近の消費者に對し既成半成の飲食物を配給する場合も少なからざるが故に、我國の消費者戸數に對する食料品店の數は米國に比して少くとも三倍以上となるべし、最も我が兩都市の商店數は卸小賣の全體を云ふものなれども、其の大部分を占むるは小賣業なり、而して我國の小賣業が斯の如く多數の細小企業に分裂せるが爲め、都市に於ける土地建物の大なる部分を占領せることは、我國の家賃暴騰の大原因を爲すものなり、小賣費用の重要項目は家賃と勞働費用との二者なるが、家賃を騰貴せしむるが如き小賣業の細分は特に小賣費用を大ならしむるを免れず、更に小賣業が細小無資力の企業となり、特に掛賣りを行ふが爲めに現金仕入れを行ふこと難きときは、大量商品を迅速簡單に取扱ふことを要する大生産者又は問屋より直接に取引すること難く、仲買人の手を経て仕入れを行はざるべからず、現に我が大都市の魚市場青物市場に於ける取引は問屋と仲買人との間に行はるゝ場合甚だ多し、今日世論は中央市場の設立の緊要を主張すと雖も、今日の如く魚類青物類の一般小賣業が細小無資なるときは中央市場を設くるも少なからざる配給費を要する所の仲買人の介在を排除すること能はず、又仲買人が

介入するときには中央市場の公定相場が直接に小賣相場を支配するの作用を爲すこと難し、中央市場を有効に活用せんとすれば必らずや小賣取引に於て店頭賣買現金取引を盛ならしめ、以て資力充實せる大規模の小賣商人を發達せしむることを要す。

米國小賣店一戸に對する消費者戶數の割合

食料品店	七二・六	靴店	一七一・六
男物雜貨	六〇・二七	金物店	六五七・五
呉服店	六九一・五		

東京大阪両市各種食料品商店一戸に對する

消費者戶數の割合

	東京		大阪	
	東京	大阪	東京	大阪
砂糖商	八四・三	二二六・七	一三三・七	一〇一・七
鳥獸肉商	四九・七	六七・八	一五・三	一七・七
乾物商	二八〇・一	三七五・一	二二・一	一八・一
西洋食料品商	二六六・四	二〇五・四	五・六	九・三
魚類商	一四一・一	二六六・八		
			青物商	一三三・七
			酒醬油商	一五・三
			白米商	二二・一
			菓子商	五・六
				究三

我國の食料品以外の小賣業に在りては得意廻り及掛賣の行はるゝこと比較的になく、従つて小賣費用も小なり、歐洲戰爭以前には一般に家賃も低く特に小賣商店の使用人が極めて低廉の報酬に満足して勞働したるが故に、此種小賣業の費用を小ならしめたり、當時は種々の商品を歐米の卸賣市場より仕入れ、相當の運賃及關稅を拂ふて之を輸入し來るも、尙ほ我國の商品配給費が

割合に小なりし爲め、其小賣相場は歐米産地に於ける同種品の小賣相場よりも低き場合なからざりき、是れ恰も今日我國の生産物にして支那に輸入せられたるものゝ小賣相場が、我國内に於ける同種品の小賣相場よりも低き場合あると異ならず、然るに歐洲戦争以來我國の配給費特に小賣業の費用が急激に増加し、家賃の騰貴と商業使用人費用が大となりし爲め、我國に於ける食料品以外の小賣業の費用も最早や歐米に比して特に小なりと云ふを得ざるに至れり、近來經濟界不景氣にして諸物價の下落せるに係はらず、家賃は依然として騰貴の勢を持續し、又不景氣の爲めに失業者續出するに係はらず、商店の要求する丁稚小僧は依然として大缺乏を呈し、之を雇入るゝが爲めには多大の費用を必要とするに至れり、故に今後は生産費中の大なる部分を占むる配給費就中食料品の小賣業費を減少して其價格を低廉ならしむるが爲めには、少數の商店にて多額の取扱を爲し、特に人力を省約することを要するは明かなるが、之が爲めには一般消費者が成るべく商人に繁雜の手敷を費さしむることを避け、特に自ら市場に赴きて店頭購買現金拂及購買品携帯の風習を發達せしめざるべからず、今日の如く我國民にして商業に對し妄りに繁雜の手敷を費さしめ、又掛賣に由る多大の貸倒れの爲め商業の經營を甚だしく危険ならしむることは、重大なる社會的浪費にして産業の能率を減損すること甚し、故に目下行はれつゝある國民的節約運動に於ては、單に個人的節約を勸誘するに止めず、更に如上の社會的公共的浪費の節約を強調せざるべからず。

三 配給費の減少と國民道德

我國の小賣業就中食料品小賣業に於ては、商業的能力乏しく又資力の薄弱なる過多の小賣商人

が、一般消費者の生活慣習の放縱不規律なるに乗じて得意廻り及掛賣の方法に由り自衛の途を講せんとするが爲め、消費者が現金拂を爲すも特に割引せず、又消費者が自から商店に赴きて購買品を携帯し歸る場合にも、得意廻り又は購買品送達の場合に比して特に割引せず、即ち商人は得意廻り送達の費用及掛賣の利息と貸倒れの損失とを一般取引に負擔せしめ、之が爲め一般消費者をして店頭購買を爲し又現金拂を爲すの不利を感せしめ、以て成るべく得意廻り及掛賣の惡慣習を維持せんとするの風あり、此の重大なる社會的浪費を意味する惡慣習を除くが爲めには一般商人をして現金拂に對して割引せしめ、又店頭購買に對して割引せしむることを得策とするが如きも、寄生的に存在しつゝある大多數の無能なる商人は掛賣及得意廻りを以て最要の自衛手段とするが故に、任意的に此等の方法を廢止せしむることは不能にして、又強制的に之を廢止せしめ得る性質のものにあらず、故に一面に一般消費者が覺醒して目前の損得を問はず、現金拂及店頭購買を實行せざるべからず、消費者にして之を實行するときは、一方に有爲の商人は進んで現金拂及店頭賣に對して割引を行ひ、之が爲め商業界に健全なる淘汰が行はれて、著しく日用品配給費を減少するに至るべし。

我國の小賣取引に於て得意廻り及掛賣が汎く行はるゝとは云へ、消費者が店頭購買及現金拂を爲す場合少なからず、故に得意廻り及掛賣の方法に依頼する消費者は大に反省し、自己の取引態度に由りて、店頭購買及現金拂を爲す善良の消費者に對し重大なる不當の損害を加へつゝあることを顧みざるべからず、若しも一般消費者にして他人に不當の損失を加ふるも一身の利益となれば可なりと云ふが如き思想を有するときは、到底小賣業を革新して配給費を減少し以て一般消費

者の公益を増進するを得ず、上述の如く消費者の間に店頭買、現金拂の風習が起らんとするとき、有爲の商人にして店頭現金賣に對して公正なる割引を爲す者増加し、商界に於て健全なる陶汰が行はるゝに至るべきが故に、各消費者は目前多少の不利不便を忍びて店頭現金拂を勵行することを以て自己の永遠の利益を圖る所以なるを同時に、一般消費者の公益を増進する所以とし、之が勵行を以て各自の道德上の責任なりと爲さざるべからず。

上述の小賣取引上の弊風は放漫不規律なる消費者が善良なる消費者に對して不當の損害を加ふるものなるが故に其の道德上批難すべきは多言を要せざる所なるが、一步を進めて考ふるに假令へ吾人が相當の報酬を提供して行ふ場合に於ても、尙ほ他人をして自己の爲めに無用の手数を費さしめ、特に今日の小賣取引に行はるゝが如く商人をして妄りに對人的勤勞を爲さしむることは道德上甚だ批難すべく、此種の行動は自己に分配を受けたる所有物を浪費するに比して更に大なる罪惡と云はざるべからず、蓋し必要已むを得ざるの理由なく人をして自己の爲めに勤勞せしむることは、報酬を提供するを否とを問はず、人生に無意義の勞を爲さしむるものにして、他人の人格を手段視し之を弄ぶものに外ならず、此の如きは人格思想の發達せざりし封建階級時代の遺習にして道德上最惡の奢侈浪費たらざるべからず、今日の社會改造に關して如何なる主義を採るを問はず、其根柢は之を人格尊重思想の完成に置くことを要するものとすれば、日常生活に於ける此の如き弊風を根絶するが如く人心を嚮導することが社會改造上の要件たらざるべからず、我が國民は旅客となりては旅館に不相當の茶代を與へ、下宿屋に住すれば其主婦に過大の心付けを爲し外國旅行の際にも資力の割合に過大のチップを濫費する者が日本人たることは既に世界の通

評となれり、吾人の此態度たるや他人の好意に對する感謝の表示たる場合固より少なからずと雖も、一面には妄りに他人をして對人的勤勞を爲さしめんとする不純の要求に出づること大なるは争ふべからざる事實にして、小賣取引上に於ける弊風と其根源を一にするものなり。

今日の物價調節上重要視せられつゝある節約運動を見るに、其最要の標語は儉約せよ貯蓄せよと云ふに在りと雖も、民衆に對する宣傳に於て單に此の如き標語を使用するときは大なる誤解を來たし、即ち社會的浪費を生ずると否とを問はず、個人的に節約となる事柄を行へば可なりと誤解せられ、徒らに民衆の利己心を刺戟するに至るの危険あり、政治に關すると經濟に關することを問はず、國民教化の運動は常に道德的向上を來たす性質のものたるべきは多言を要せざる所なるが、單に物質的効果のみに付て見るも、各人が公共的浪費を省き、特に人をして自己の爲めに無用の勞を爲さしむることを避くるの努力を爲さざる限り、一國産業の生産費を減少して生産の増加及物價の下落を來たすことは不能ならざるべからず、今日行はれつゝある一般の節約宣傳に對して一部の人士は冷淡の態度を採り、節約なるものは節約すべき餘裕ある有産者に對して云ふべきものにして、此餘裕なき無産者の關する所にあらずと云ふが如き思想を有する者少なからず、然るに若し上述の如く吾人の守るべき節約は私有物と公有物とを問はず之を浪費することを避くるのみならず、各自之を人生に有意義に使用するの責任ありとし、特に各人は互に他人をして自己の爲に無意義の消費を爲さしむる事を避くべきのみならず、自他共に成るべく有意義の生活を爲すべく互に相助くるの責任ありと云へる基礎に立ちて節約を行ふべきものとすれば、之を行ふの必要は有産者と無産者とを差別するを得ざるべし。